



看護部 副看護部長
クリティカルケア看護専門看護師 木下 佳子



トレーニングラボを開設

医療者が日ごろからトレーニングを行っていることはご存知ですか？

患者さんに安心して治療を受けていただくことができるように、
基本から高度な技術まで、さまざまな状況の訓練を行っています。

今回の特集では、訓練のための施設であるトレーニングラボをご紹介します。

シミュレーション教育の必要性とは？

医師・看護師など医療者は皆、教育機関で勉強し、国家試験を受けてから、病院に勤務します。しかし、学校教育だけでは、十分な技術が身につくとはいえません。今までは、実際に医療行為をしながらさまざまな技術を身につけ、一人前の医師や看護師に成長してきました。最初は、うまくいかなかったり、患者さんに痛い思いをさせてしまったりという経験をだれもがしていました。また、予期せぬ出来事に遭遇したとき、どのように対応したらよいのかわからなくて困った経験をもつ医療職は少なくありません。そこで、

確実な技術や、さまざまな状況の中で対応する能力を身につけるために考えられたのが、シミュレーション教育です。

医療におけるシミュレーション教育の意義

医療は、航空産業と同じようにハイリスクなサービスです。航空産業では、パイロットとクルーが安全・確実にフライト業務を遂行できるよう「シミュレーション訓練」を繰り返し行うことで「安全な空の旅」を実現してきました。医療チームもシミュレーション学習により、医療を安全に遂行できるよう訓練する必要があります。シミュレーション訓練



の利点としては、「患者に実害を及ぼさず訓練できる」「何度でも安全に失敗を経験できる」「実際にはまれな危機的状況を再現できる」ことがあります。

シミュレーション教育の内容

シミュレーション教育には、ローテクシミュレーションとハイテクシミュレーションがあります。ローテクシミュレーションとは、コンピュータ制御を要しない人体の部分の模したシミュレーターを用い、医療行為の基本となる技術を訓練するものです。例えば、採血技術、静脈注射技術、一次救命処置などです。

ハイテクシミュレーションとは、現実を再現した環境の下、コンピュータ制御の高機能シミュレーションを用いて行うものです。個人だけでなくチームとして、再現した状況にどのように対応するかトレーニングができます。例えば、アナフィラキシー^{※1}ショックで血圧が低下し、呼吸状態が悪化した患者さんにどのように対応するかなどです。

※1 アナフィラキシー：ハチ毒や食物、薬物などが原因で起こる急性アレルギー反応の一つ

※2 AED：自動体外式除細動器

関東病院における実際のシミュレーション教育

関東病院では、シミュレーション教育を行うための「トレーニングラボ」が昨年秋に誕生しました。静脈注射を練習するための「うでモデル」や、お尻の筋肉注射を練習するための「おしりモデル」などがあります。ハイテクシミュレーションに使用する人形は、瞬きをし、呼吸をし、脈が触れ、血圧を測ることもできます。また、呼吸不全や循環不全、不整脈が出現したというような状態を作り出すことや、実際に電気ショックをかけることも可能です。

当院では、このようなトレーニングラボを使用して、計画的にトレーニングを行っています。今年の4月には新しい職員を迎え、看護師と研修医が合同で技術トレーニングを行いました。また、事務職員などを含めた全職員が、院内に設置されたAED^{※2}を使用して一次救命処置を行えるようなトレーニングも実施しています。

私たちは、シミュレーション教育を通して、患者さんに安心して安全な医療が提供できるように、今後とも努力していきます。

